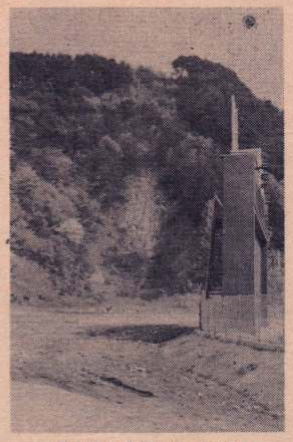
昭和43年3月1日第3種郵便物認可

長根山運動公園にアストロシャンツェを建設

市では、長根山運動公園内に年中利用できるジャンプ台「アストロシャンツェ」の工事に着手しました。



野球場から望むシャンツェ

建設されるシャンツェは、長根山の既存の七十メートル級シャンツェを四十メートル級に改造して建設するもので総工費は約五千九百万円。

同シャンツェの概要は、ゲレンデの総面積二千二百九十五平方㍍、アプローチの長さ五十六㍍、斜度三五度、ランデングバーン長さ四十㍍、斜度三六度、高低差―六十四㍍、P点―四十㍍、K点―五十㍍となっています。

アストロシャンツェは、滑降面にポリエチレンを主原料としたマットの上に人口芝生状のものを敷き、さらにこの上にパール状のビーズをまんべんなく敷きつめ、スプリンクラーで散水することによって、滑走性、柔軟性をだすもので、これによりオールシーズン利用できることになります。

建設工事は、七月までに基盤工事を終え、それに滑降面をしあげて八月いっぱいの完成を予定しています。

長根山シャンツェはこれまでにも数多くのジャンプ大会が開催されており、とくに昭和三十年代の全日本大会や国際大会を知る市民にとっては長根山でもう一度ジャンプ大会をと復元を望む声がここ数年来高まっていました。

完成すると全国で六番目、秋田県内では初めてということになり、今からスキー関係者や市民から大きな期待が寄せられています。

＜交通事故相談日＞
6月9日、16日、23日
＜法律相談日＞
6月18日
＜社会保険相談日＞
6月22日
＜国税相談日＞
6月25日

パイプ役
一ト調査から

昭和二十六年四月一日、大館市が誕生し、同年八月二十日に発行された「広報おおだて」も、本号で三百号を迎えました。

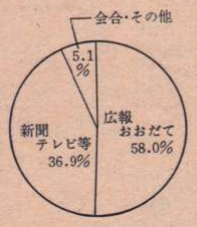
市民と市政のパイプ役としての責任を果たしているだろうか――そんな疑問を持ち続けながら広報をお届けしてきました。

今回、広報三百号の発行を機会に、広報に対する市民のみなさんの考えをお聞きしようと、アンケート調査を実施しましたが、広報をよりよくするための率直なご意見おしかりを多数寄せていただきました。これからの広報紙づくりの指針にしたいと思っています。今後も広報についてのご意見、ご要望がありましたら広報係へご連絡くださるようお願いいたします。

なお、調査にご協力いただいた方々には心からお礼を申し上げます。

市政に関することは……
「五八％が広報で知る」

▼あなたは、日ごろ市政に関することを何で知りますか



広報、新聞・テレビの順になっており、このうち広報紙からと答えた人の年代は、四十代が六十％と最も多く、五十代、六十代、二十代、三十代の順になっています。男女別では、女性の方が広報によって市政を知る機会が多いという結果が出ています。

▼あなたは、日ごろ広報おおだてを読んでいますか

よく読む……五〇・五％
だいたい読む……四三・一％
あまり読まない……六・一％
全く読まない……〇・三％

「よく読む」「だいたい読む」と答えた人を合わせると九三％以上になります。

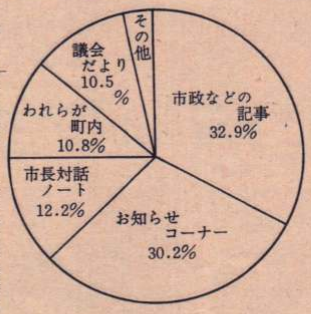
「あまり読まない」「全く読まない」と答えた理由については、関心がない、読んでいる暇がない、おもしろくない、読むことがきらいだから、などがあげています。

みんなが楽しく読める広報紙づくりに努力していきたいと思います。

▼「読む」と答えた方は、主にどの記事に興味がありますか

興味をもって読まれる記事は、市政などの記事、お知らせコーナー、市長対話ノートの順になっています。

男女別では、「市政などの記事」「議会だより」では男七六・二％、女三二・八％、「われらが町内、わがグループ」「お知らせコーナー」では、男二八・九％、女七一・一％となっており、男性は行政関係、女性はお知らせ関係に興味のあることが伺われます。



▼広報おおだての発行回数はどうですか。（現在月二回）

いまのままで……七九・〇％
回数を多く……一四・六％
回数を少なく……六・四％

▼広報おおだての内容はどうですか

読みやすい……二四・一％
ふつう……七一・九％
読みにくい……四・〇％

▼広報おおだてを改善する方法について

改善してほしいというのが全体の三割になっており、改善方法については、写真やさし絵をもっと多くしてほしい、文章をやさしく、紙質の改善、多色刷りページ数の増などがあげられています。

より読みやすい広報にするため、早い時期に改善していきたいと思います。

今のままでよい	69.5％
写真やさし絵をもっと多く	19.0％
文章や漢字などをやさしく	3.7％
その他	7.8％

市長のトーク談話 №32

広報「おおだて」が三百号を迎えて

梅雨期に入り、病菌の最も繁殖し易い頃となります。健康には十分注意し合いましょう

広報「おおだて」が昭和二十六年に発刊以来、市政三十周年の記念すべき年に三百号を数えるに至りました。市民と共に喜びあいたいと存します。この間、いろいろな試練もありましたが、常に市民と共に歩む方針は不動でありました。市民の皆さんのご協力に深く感謝を申しあげます。

また、「市民参加、市民運動の中の市政」の実現を目標にしており、その一つとして広報に対するアンケート調査をやらせていただきました。貴重なご意見、ご要望もありましたので、刷新、改善につとめたいと存じます

「母の日」に思う……

「母の日」にふと思いました。私たちの心のふるさと、それは母であり、乳房ではないだろうかと。

人間、万物の霊長、結構です。しかしほ乳類であることも間違いのない事実です。

母乳、乳房は母と子のスキンシップではないでしょうか。言葉やお金で親子の情の交換は限度があるでしょうし、権威や経済力で子供を従えようとするところに多くの問題が起こっているのではないでしょうか。もっともっと体ごと、心ごとふれあいたいものです。

海、苺、梅、いずれにも母なる字体が入っており、刺激物があります。母も同じように子供に言葉では表現できない刺激を与えているものではないでしょうか

母（女性）には、生命を生み、育てていただいております。知りながら現実に男女が平等になっているでしょうか。言葉でも、形でもなく真の意味で……。

確かに社会参加の機会は多くなっていますが、まだまだ弱く、平等という名の別扱いになっていると言わざるを得ないと思います。「与えられるものではなく、自ら勝ちとるものだ」という意見もありますが、それは現実を正しく見ていないからでしょう。女性の強い社会こそ、真の民主主義、平和な社会ではないでしょうか。「母の日」にちなんで、そう感じました。

角山健治郎

水道週間
6月1日～7日

◆水は大切に使いましょう

六月一日から七日までの一週間は「水道週間」です。

水道は、皆さんの健康、生活を守り豊かにするため、一日も休むことなく活動をつづけています。この水を豊富に供給するために、水道についの理解と関心を高めていただき、水道事業の健全な発展を図るための運動が「水道週間」です。水の大切さについては、広報でも昨年の十二月一日号から今年の三月一日号にかけて「水を考える」と題し特集を組んできました。さらに先月中旬から今月初めにかけて市政懇談会として水道座談会も行っています。これからも身近で最も貴重なエネルギーである水に対して一層のご理解とご協力をお願いします。

◆水道相談所を開設

期間中は各種行事を予定していますが、六月五日から七日（午前十時から午後五時）まで大町正札竹村において「展示コーナー」を設け、水道の水ができるまでのパネルや写真を展示するほか、水道に関連した機器も併せて公開します。

また同会場に「水道相談所」を開設し、皆さんの水道全般にわたるご相談を受け付けることにしています。どうぞお気軽においでください。